

カー電 アップデーター

有機ELディスプレイだからこんなに薄い

最薄部4.7mmという厚みは、非常にスマート。フロントから見えるStradaの文字も洗練されている。また、周囲の視界や操作性に配慮し、ディスプレイの高さ、角度、奥行きも調整できる。この構造だから540車種以上のクルマに装着可能。



DVD/CDスロットはもはや無くてもいいのでは…



DVD/CDスロットは廃止されたのだが、スマホにCDの音楽を収録すればまず問題は解決。Wi-Fiでも写真のようなUSB Type-Cによる接続で音楽を堪能できる。実は、DVD/CDのドライバーをなくすことで、ノイズの低減も可能になったという。

Apple CarPlay & Android Autoもワイヤレス接続

スマホの自動車用アプリも、ワイヤレスで接続が可能。地図も常に新しく現在の最新情報などを探すには便利だ。



「音の匠」で上質なサウンド体験を



ミキサー・ラボとのコラボレーションで作り上げた3つの音場が「音の匠」、臨場感を極める「極サ운드」、スタジオマスターサウンドに近づけた「匠マスターサウンド」そして、「和(なごみ)」は、会話の周波数を邪魔しないチューニングとなっている。さらにタイムアライトなど、独自の音場セッティングも細かくできる。



自宅のように動画を楽しむ

スマホを介するだけで、ワイヤレスでネット動画も楽しめる。さらにレコーダーリンクを装備する。本体にも4つの地デジチューナーと4つのアンテナを装備し、データを合成補正。また受信状態によっては12セグからワンセグに自動で切り替わる。FMはワイドチューナーで、FM対応のAMラジオは、高音質ステレオで受信可能。

ワイヤレスによるスマホとの連携強化でデジタル路線を強化推進

(ネットワークを介して接続できるストレージ)ではアイ・オー・データ製バッファロー製に対応する(一部非対応製品あり)。さらに地デジチューナーも内蔵。HDMI入出力も装備するので、オンラインの動画再生やリヤモニターへの接続も可能だ。モニターを倒すことで現れる本体スロットは、SD/マイクロSDとUSBタイプC用。持ち込んだ音楽や動画コンテンツを再生できるほか、タイプCにスマホを接続すると最大15Wの急速充電も可能。

ところでこの新型モデルでは、DVD/CDスロットが省略された。こ

の点を気にされる方もいるようだが、むしろDVD/CDを持つままにしておくことが正解ではないだろうか。今やDVD/CDはコレクターズアイテムでもある。それを高温の車内に放置するのはおすすめでない。CDはスマホやNASに保存することで、莫大な自宅のコンテンツでも安心して再生することができると考えるべきだろう。それこそレコードもデジタル化して保存できるので、CD以上のハイレゾ音

源を楽しむことだってできるのだ。

そして気になるサウンド再生だが、今回の新モデルからデジタルアンプを中心としたステララダー・サウンドエンジンと刷新。そしてオリジナルの音場制御とサウンド再生機能の音の匠によって、極サウウンド、匠マスターサウンド、和(なごみ)重視を選択できる。これによって、車内はノーマルのスピーカーであっても驚くほどのリアルなサウンドで満たされる。このように語りきれないほどの魅力的な装備に満ちているのが、ストラダCN・F1X10C1Dだ。

カーナビゲーションシステム

迷ったら、これ。驚きの連続に



パナソニックでなんといっても注目なのは、フラッグシップであるCN-F1X10C1Dだ。動画再生の多彩さに加え、フローティングディスプレイというアイデアを生み出したメーカーだけに、極薄の有機ELディスプレイとのコンビなど、上質さも魅力のポイントだ。

まとめ: 松永大演 写真: 前田恵介

Panasonic
Strada F1X Premium 10
CN-F1X10C1D
価格: オープン(実勢価格: 25万円前後)
© パナソニック 0120-50-8729
panasonic.jp/navi

10V型ワイドという大画面を、フローティングスタイルで構築。ディスプレイには有機ELを採用し、最薄部は4.7mmを実現。接続可能な動画配信も多彩だ。さらに自宅のレコーダーの録画データをインターネット経由で楽しむこともできる。また地図更新利用開始から最大3年間、部分地図更新(年6回×3年)と、全地図更新1回が無料となっている。

フローティングスタイルで操作しやすいディスプレイ

ストラダCN・F1X10C1Dのハイエンド性を語る上で、不可欠なのがフローティングスタイルをはじめて実現したことだ。画面サイズに限界のあったビルトイン型を飛び越え、10V型という大画面を実現。さらに有機ELディスプレイを採用。素子が自発光して画像を生み出すので、黒色は液晶と異なり発光せず

表現する、まさに漆黒がそのまま表現される。そして極めて薄い。また画面が手前にくるので、画面操作もしやすくなるというメリットもある。さらに特徴的なのが動画再生の多様さだ。多くのネット動画の配信サービスが楽しめるほか、レコーダーリンクを利用して、ネットワークと接続されている自宅のレコーダーの録画映像を再生できる。それもレコーダーはパナソニック製品だけでなく、シャープ、東芝、そしてNAS

交差点、地名、街道名などが明確



見やすい地図表示に貢献しているのが、カテゴリごとの文字表示を変えていること。交差点名は白字、地名は薄く青文字、施設名は黒文字、街道名などはその種類によって地色を変えている。説明されなくても、自然と理解できるのいい。

基本のハードキーはディスプレイ上面に



スクリーンとした画面では、どこを最初に操作すればいいかわかりづらいが、そんな時は上部スイッチを操作。中央にはオーディオ、メニュー、地図の画面切り替えがある。左は再生メディアの送り、右は音量。また同様の操作は右上のコマンドを押すことで、画面上部にも現れる。

四角4つのランチャーボタンを押すと、下に操作画面が現れる。ここで地図を2画面表示にするなど、様々な操作が可能。